



院内部門紹介

SCU (Stroke Care Unit) 紹介

脳卒中ケアユニット部長 富山 誠彦



当院脳神経センターでは、平成25年4月に脳卒中ケアユニット (Stroke Care Unit) (6床) を9階西病棟に開設しました。脳卒中ケアユニットとは、急性期の脳血管障害 (脳梗塞・脳出血・くも膜下出血) の患者さんを受け入れる専用の病床で、脳卒中の専門知識を持つ医師 (神経内科医と脳神経外科医など)、看護師、リハビリテーション技師らの専門チームにより、脳卒中を発症早期から24時間体制で集中的に治療する病床のことで、この病床で治療することにより 1. 死亡率の低下 2. 入院期間の短縮 3. 自宅への退院率の増加 4. 長期的な日常生活能力や生活の質の向上、が達成できることが示されており、脳卒中治療ガイドラインにて強く推奨されている診療体制です。

青森地域は県内において脳卒中連携がもっとも円滑に行われている地域です。脳卒中を発症したら、急性期に体制の整った病院になるべく早く患者さんを収容し、治療を開始しなければなりません。脳梗塞の場合には、発症から3時間以内に体制の整った病院に収容されれば、脳の詰まった血管を溶かすアルテプラゼ (t-PA) という薬を静脈注射する事で、後遺症なく治る方も増えています。当院のt-PA使用実績症例数は県内でも1、2を争っています。脳卒中を専門とする医師が院内に24時間常駐することにより、脳梗塞に対するt-PA療法を今まで以上に効率的に行えるようになりました。脳出血やくも膜下出血に対しても今まで以上に早く有効に対応できるようになりました。また重点的な人員配置により診療中の診療・

リスク管理が向上でき、リハビリテーションをより早期に適切に導入できる可能性が高くなりました。脳卒中は後遺症が残る病気で、退院後もリハビリテーション、介護、在宅診療などの欠かせない分野です。このような脳卒中診療の切れ目のないスムーズな流れをこの青森では整えつつあります。脳卒中急性期の治療のスタートにあたりSCUが果たす役割は大きく、これを徐々に拡大して当院を青森県の脳卒中センターとしてさらに飛躍させていきたいと考えています。

最後に体制を整えるにあたり、ご協力いただきました院内関係者の方々に深く感謝申し上げます。



トピックス

母乳育児中のお薬に関して

新生児科部長 網塚 貴介



母乳育児中断の大きな原因の一つにお母さんへの薬剤投与があります。これは病院から処方される薬剤の説明書（医薬品添付文書と言います）の約70%に授乳婦に禁忌または投与注意との記載があることがその理由で、このため多くの医師や薬剤師は授乳中のお母さんに対して「お薬を飲んでいる間、おっぱいは止めて下さい」と説明することが多くなります。

一方、お産から1ヶ月以上経過したお母さんの母乳分泌維持には「おっぱいを張らせないこと」がとても重要になります。これは、この時期の母乳分泌のコントロール機構が乳房局所に移行されるため、「飲み残し」の乳汁が乳房内に留まっていることが、次の乳汁産生に悪影響を与えとされています。「お薬を飲んでいるのは何日でもないので、その間ぐらい母乳を止めても大丈夫なのでは？」と思われがちですが、適切にご自身の乳房ケアによりお薬の内服中にしっかり定期的に母乳を搾ることができれば良いですが、それができない状態で突然母乳を止めると乳房トラブルが非常に発生しやすくなります。

お薬を内服中の授乳に関しては、本来は科学的根拠によってその可否が判断される必要があり、平成19年に厚生労働省から出された「授乳・離乳の支援ガイドライン」でも「薬の使用による母乳への影響については、科学的根拠に基づき判断の上、支援を行う」との記載があります。医薬品添付文書中に「動物実験で乳汁中に移行することが報告されている」との記載があっても、例えばある吸入薬における動物実験では、実験動物へ腹腔内投与することで乳汁移行しているとしている例もあり、こうした事実は処方する側もされる側も知っておいても良いのではないかと思います。

授乳中のお母さんに投薬が検討される場合、まず1) そのお薬は本当に必要な薬であるのか？、2) 同じ作用を持つ薬剤の中でもっと安全な薬剤

はないか？、3) 授乳中のお母さんは完全母乳育児中なのか混合栄養なのか？、こうしたことを念頭に入れておく必要があります。本来、基礎疾患のないお母さんの場合、母乳中を介して赤ちゃんに移行する薬剤量を正しく評価すれば母乳を中止しなければならない場合は非常に稀となります。詳しい情報は厚生労働省事業 妊娠と薬情報センターのホームページ (<http://www.ncchd.go.jp/kusuri/>) でも調べることができますし、また「あomor母乳の会ホームページ(<http://aomori-bonyuu.jp/>)」では青森県内で母乳育児に関して相談できる施設を検索できる母乳支援MAPも用意してありますのでご活用いただければと思います。本県で授乳中のお母さんが一人でも多く母乳育児を続けられますことを切に願っております。



県病メディコトリム

“脱メタボ”に **効果的！！**

体重減、血圧低下、お薬の減量

運動指導に**参加**されてみませんか？

メディコトリムとは？

「メディカル（医療）」＋「トリム（整える）」

＝「医療の力を借りて身体（体調）を整える」という意味の造語です。

メタボリックシンドロームやその予備軍に該当する患者さんを対象に、専門家による食事指導や運動指導を行った後、病院外来で定期的チェックをすることで、持続的に支援を行います。

メタボや肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症など…

食事と運動により改善を望む方 対象

【日時】 **毎奇数月の第1, 3木曜日** 18:00～20:00

【1回目 体力測定】

【2回目 集団指導】



その後は…基本的に自宅で自主トレーニング！

定期的(1～3 か月毎)にメタボ外来を受診して、改善具合を確認！

脱メタボで、体質改善！

まずは、**メタボ外来** を受診してください。



お問い合わせ先：**県病総合診療部** (017-726-8406)

紹介状持参のお願い と 予約受診のお願い

当院は、県内唯一の県立総合病院として、県民の皆様に対し、高度で専門的な医療の提供とともに、地域の医療機関との連携を進め、医療機能に応じた良質で効率的な医療の提供に努めています。

そのため、体調がおかしいという時は、まず、地域のかかりつけ医を受診していただき、精密検査や専門的な治療が必要となった場合には、受診した医療機関からの紹介及び予約をお願いしています（ただし、緊急・救急の場合はこの限りではありません。）。

そして、受診する際には、紹介状をご持参いただき、予約時間前に新患受付で手続きをお願いします。

